

2023 年 9 月 15 日

The Emerging Markets Weekly

高金利通貨や資源国通貨が上昇、人民元は一時 16 年ぶりの 安値に

新興国市場:先週末 8 日、アジア時間の新興国通貨はまちまち。米国による対中規制の強化方針が懸念され CNY は下落。一方、INR や PHP は堅調な推移。欧米時間、一時米金利が低下する動きに連れてドルが下落する場面もみられたが、その後持ち直した。新興国通貨は上昇後下げに転じ、CNY は 7.35 に接近し、2007 年以來の安値をつけた。BRL も軟調。片や、RUB は上昇した。週初 11 日の新興国通貨は概ね上昇。アジア時間、中国人民銀行 (PBoC) が市場予想より基準値を CNY 高方向へ設定したことや CNY 安を強くけん制したことで CNY が上昇。その他のアジア通貨も小幅に値を伸ばした。欧米時間、ドルが上値重く推移したことを背景に新興国通貨は買われた。高金利通貨の上昇が目立ち、RUB は前日比+2.4%超、MXN、ZAR と BRL は前日比+1.0%超値を伸ばした。12 日の新興国通貨は大半が小幅な値動きにとどまった。アジア時間から欧米時間にかけて、翌日に米 8 月消費者物価指数 (CPI) の発表を控え市場は様子見ムード。THB や BRL、ZAR が売られた。他方、RUB は前日比+1.2%上昇。13 日のアジア時間の新興国通貨は、小幅安。引き続き PBoC が基準値を CNY 高方向に設定したことで、CNY は上昇した。欧米時間、米 8 月 CPI は市場予想を上振れ一時米金利が上昇したがすぐに戻し、ドル高には至らず。新興国通貨はまちまちな動きとなり、RUB が前日比▲1.8%下落する一方、BRL や ZAR は買い優勢。14 日、アジア時間は前日の米 CPI の結果を受けて FRB の利上げ停止観測が浮上し、新興国通貨は底堅く推移した。KRW が上昇。欧米時間、ECB が利上げを決定するも、利上げ休止の可能性を示唆したためユーロに連れて東欧通貨は急落。ZAR は前日比▲1.1%下落した。片や、原油価格の堅調などを支えに中南米通貨の大半は上昇。BRL は大幅に値を伸ばした。

アジア:8 日に発表された中国 8 月 CPI は前年比+0.1%と 7 月からプラスに転じ、市場予想通りとなった。同日発表の中国 8 月生産者物価指数 (PPI) は前年比▲3.0%と 7 月からマイナス幅が縮小したが、市場予想より僅かにマイナス幅が大きかった。12 日発表のインド 8 月 CPI は前年比+6.83%と 7 月から鈍化し、市場予想を下回った。タイ政府は 13 日、2024 年度の財政計画を承認した。歳出を 3 兆 4,800 億バーツに引き上げた。PBoC は 14 日、市中銀行に課す預金準備率 (RRR) を 25bp 引き下げると発表した。15 日からの適用となる。RRR の引き下げは今年 2 回目となる。

ラテンアメリカ:メキシコ財務省は 8 日に 2024 年予算案を発表し、来年の経済成長率は今年見込み (+3%) 並みの+2.5~+3.5%と想定された。また、多額の債務に苦しむ国営石油会社への追加的な公的支援も盛り込まれた。12 日発表のブラジル 8 月消費者物価指数 (IPCA) は前年比+4.11%と 7 月から加速したが、市場予想を下振れた。インフレ目標 (+1.75~4.75%) の範囲内に 6 か月連続で収まっている。

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mhcb.co.uk

市場概観(マレーシア)

9 月金融政策会合～政策金利は年内まで据え置きの可能性も

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

マレーシア中銀(BNM)は 7 日の金融政策委員会(MPC)で、政策金利を従来の 3.00%に据え置いた。政策金利の現状維持は前回 7 月会合に続く決定となった(図表 1)。ブルームバーグの事前予想でも現状維持の予想が有力であった。

声明文における世界経済に対する見解は前回会合の内容をほぼ踏襲した内容となった。世界的な金融引き締め下において、高インフレの緩和が見られる一方で、世界貿易取引量の縮小をはじめ外需の減速に起因した成長率の減速が確認されているとした。今後の景気下振れリスクとして、インフレ再加速や地政学リスクの高まりを挙げている。

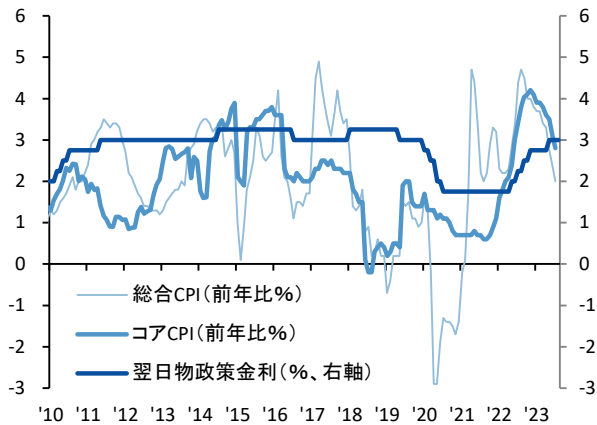
マレーシア経済に関しても、概ね同様の見方を示している。4～6 月期実質 GDP 成長率は前年同期比+2.9%と市場予想の同+3.3%を下回り、1～3 月期の同+5.6%から減速した(図表 2)。成長率減速の要因は外需の悪化と見られ、直近 4 か月の貿易実績を見ると、うち 3 か月で前年比 2 桁台のマイナスを記録している(図表 3)。品目別の内訳を見ると資源・商品及びその加工材の失速も目立って来ており、電子製品輸出に次いで外需減速のあおりを受ける格好となっている(図表 4)。かかる動きは 23 年下半期にかけて継続すると予想されている。

物価動向に関して、7 月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.0%、生鮮食品と政府による価格統制品を除くコアベースでは同+2.8%となった(図表 5)。インフレの中心は食料品・飲料価格となっており、サービス価格の高止まりも懸念されてきたが、内需の減速と付随するかたちで、6 月の同+3.2%から同+2.9%へ減速した。総合ベースでのインフレは 22 年 4 月以来の低水準を記録しており、BNM のインフレへの警戒は引き続き弱まっている印象だ。

かかる中、BNM の政策主眼は景気支援に向きつつある状況となっており、現在の政策金利の水準は景気支援とインフレ抑制双方の観点から適切である旨の記載もあり、年内まで政策金利が据え置かれるといった見方も強まっている。

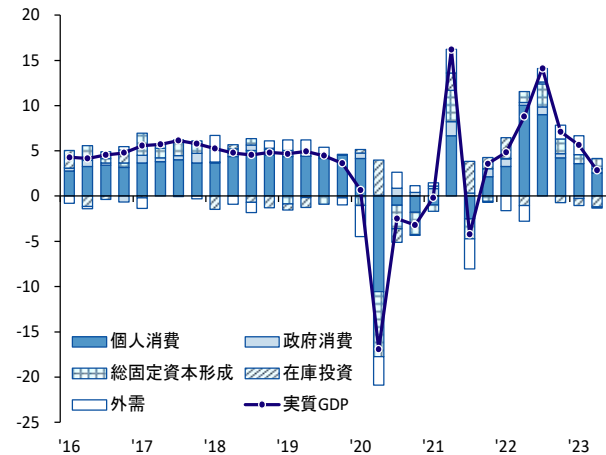
一方で、突発的な利上げの可能性があるとすれば足許の MYR 安を受けた対応となるだろう。MYR は本稿作成時点では 4.67 台での取引となっており、年初来安値の 4.69 台に接近しつつある(図表 6)。もっとも、マレーシアの個別要因で売られたのではなく、欧州や中国における景気失速懸念も相まって、ファンダメンタルズが比較的底堅いドルが選好されている印象が強い。現にドルインデックスは約半年ぶりの高水準を記録しており、9 月 FOMC においても大きなサプライズなくタカ派継続が見込まれる中、ドルが大崩れするとは考えにくい。むしろ、中国の不動産市況をはじめ世界経済の減速懸念の更なる高まりを受けてリスク心理の悪化に振られる可能性に警戒したい。当面は外部要因に揺れる相場環境となりそうだ。

図表 1: 政策金利と消費者物価指数(CPI)



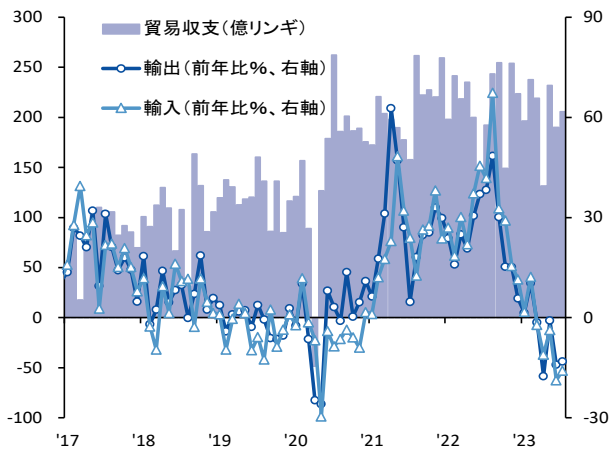
出所: マレーシア中央銀行、マレーシア統計局、CEIC、ブルームバーク、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率の推移 (前年比%、%ポイント)



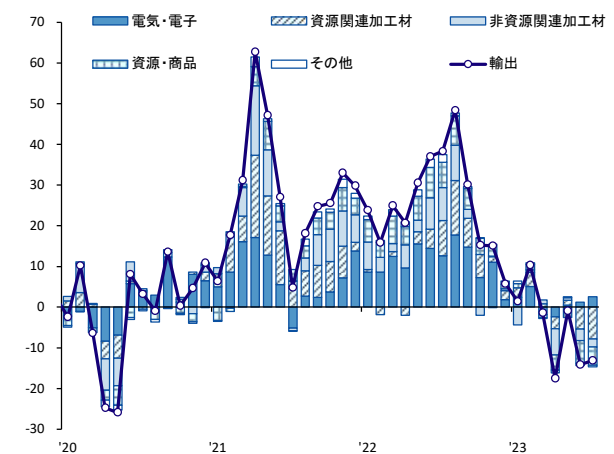
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: 貿易収支の動向



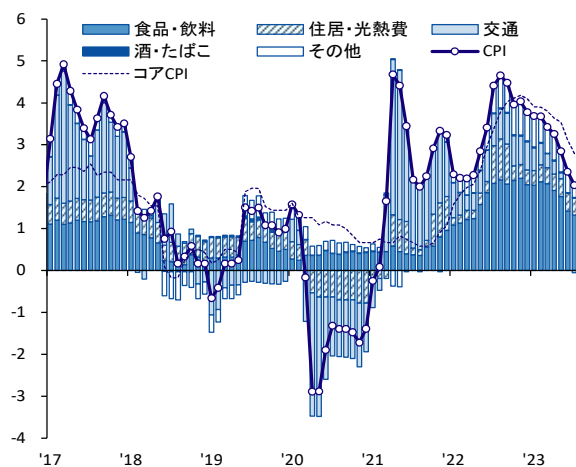
出所: マレーシア統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 4: 品目別輸出実績 (前年比%)



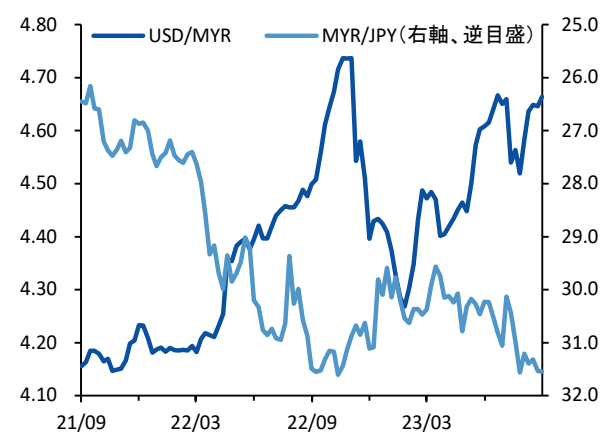
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 5: CPI の動向 (前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

図表 6: MYR の動向



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

市場概観(中国)

人民元は対ドルで 16 年ぶりの安値に

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

足許の経済動向に関して

8 月 S&P グローバル PMI の結果は、製造業は 7 月から上昇したものの、非製造業は低下した(図表 1)。製造業 PMI は、51.0 と 7 月の 49.2 から上昇し、2 か月ぶりに中立水準(=50)超えに戻した。なお、市場予想の 49.0 を大きく上回る結果となった。先行きを示す新規受注指数も 51.2 とこちらも 2 か月ぶりに中立水準超えに戻しており、底打ち感がある。外需の動向を示す新規輸出受注指数(48.0)との比較では、内需の見通しに関しては比較的強気な可能性もある。また、雇用指数に着目すると、半年ぶりに中立水準超えを記録しており、企業の採用意欲は上向きつつあるようだ。若年層を中心に失業率の歴史的な悪化が確認される中、今後の労働市場の動きにも注目が集まるだろう。他方で、非製造業 PMI は 51.8 と 7 月の 54.1 からは低下も、8 か月連続で中立水準超えを維持している。活動指数の大幅低下による影響が大きく、新規受注指数は小幅な低下にとどまっていることから、まだ非製造業の増勢は維持できそう。とはいえ、非製造業 PMI は 3 月以降で見ると明確に水準を切り下げており、年内にわたって中立水準超えを維持するのは難しそう。鉱工業生産や小売売上高といったハードデータの公表は 15 日(金)の予定だが、PMI を確認する限り 7 月よりもやや良好な結果が期待できそう。

8 月貿易収支の結果は、輸出が前年同月比▲8.8%、輸入が同▲7.3%となった(図表 2)。また、貿易黒字は+684 億ドルを記録した。黒字額は前年同月比で▲13%減少し、市場予想の+739 億ドルを下回る結果となった。輸出・輸入ともに市場予想は同▲9.0%となっており数字上は予想を上回るも、輸出の落ち込みが影響して、貿易黒字は予想を下振れた。国別の輸出は、米国向け(同▲23.1%→同▲9.5%)や ASEAN 向け(同▲21.4%→同▲13.3%)の改善が目立つ一方で、ロシア向け(同+51.8%→同+16.3%)の急減が目立つ。欧米諸国がロシアに経済制裁を科したことを受け、中国から同国向けの輸出は急増してきた経緯があるが、4 月を頂点に前年比では伸び率を急速に縮小させている。この要因がもしロシア経済の著しい減速にあるのだとしたら、現在進んでいるデカップリングの流れに加えてさらに輸出を押し下げる要因がまた一つ増えることとなる。

懸案の不動産市況については、従前より経営再建中であった不動産大手が 8 月に米国で破産申請を行ったことに加えて、国内大手も債務不履行リスクに直面していることが報じられるなど、後向きな内容が散見される。そもそも、中国における不動産開発は購入者が住宅の完成前に代金の一部を支払い、開発業者はここで回収した資金と借入を元手に別の開発に着手するのが一般的だ。このため、買い手がつかないことは手元流動性の圧迫、ひいては事業自体の持続性にも直結する問題にも繋がる。従前より業界全体で過剰投資を続けた結果、債務支払能力を上回る水準まで借入が増加している点を指摘する声も強まっている状況だ。

かかる中、当局は住宅ローン利率の引き下げや不動産購入要件の緩和など、需要を喚起するような対策を相次いで公表している。しかし、元より国内の所得格差拡大の影響で不動産購入に金銭的な余裕がない層が一定数存在すると見られる。また、足許において不動産価格の下落が確認される中(図表 3)、逆資産効果で家計が消

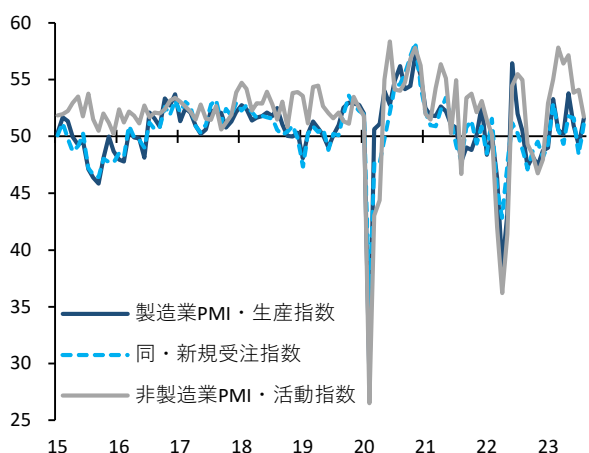
費を抑制する可能性を考慮すれば、決して楽観はできない。

物価動向に関しては、8 月消費者物価指数 (CPI) は前年比+0.1%と 2 か月ぶりにプラス圏に復帰した (図表 4)。食品とエネルギー価格を除いたコア CPI は同+0.8%と 7 月から横ばい推移だった。ゼロコロナ政策解除後の非製造業の回復に合わせ、サービス価格は同+1.2%から同+1.3%に加速した。消費財価格も同▲1.3%から同▲0.7%に下落幅を縮小させており、全体としてデフレ状態を抜け出した格好となった。川上部門の 8 月生産者物価 (PPI) は、同▲2.9%と 7 月の同▲4.4%から急速に下落幅を縮小させており、デフレ圧力はいったん緩和しつつある様にも見える。ただし、PPI の前年比でのマイナスは約 1 年続いており、CPI に関しても、ベース効果の影響で数字が高く出ている側面が否定できない。実際、CPI を前月比でみると、8 月には +0.3%と 7 月の同+0.2%からわずかな加速にとどまる。内訳を確認すると、サービス価格の減速 (同+0.8%→同+0.1%) もあり、コア CPI は同+0.0%と横ばい推移だ。これらを踏まえ、物価の基調が上向いていると判断するのは尚早に思われる。

CNY 相場について

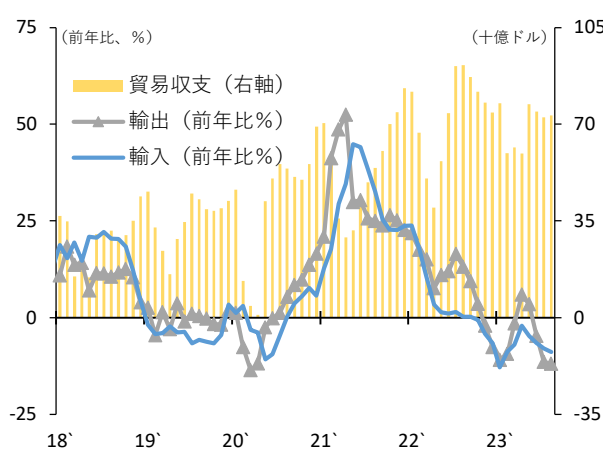
タイトルの通り CNY は一時 7.35 近辺まで対ドルで下落し、2007 年以来、16 年ぶりの安値を記録した。本欄で指摘してきた対米金利差の拡大に加えて、ファンダメンタルズの悪化が CNY 安に拍車をかけた格好だ (図表 5)。一方で、9 月に入りドルの強さも目立ってきており、中国のほか欧州でも景気失速懸念が浮上しており、米国経済の底堅さがドルの選好に繋がっている印象が強い。こうした中で、米短期金利は 5% 近傍での動きとなっているが、9 月 FOMC においても大きなサプライズなくタカ派継続が見込まれる中、ドルが大崩れするとは考えにくく、CNY 安局面は随所に現れるものと考えられる。こうした中で、現状 CNY 安の対抗策となりえるのは当局による CNY 相場安定化措置であり、直近では銀行の外貨準備率の引き下げを決定した。既に実施されているものを含めて、図表 6 に PBoC による主な人民元安の抑制手段を列挙したが、一段と当局の動きが注目される地合いにある。

図表 1: 中国 PMI の動向



出所: S&P Global、みずほ銀行

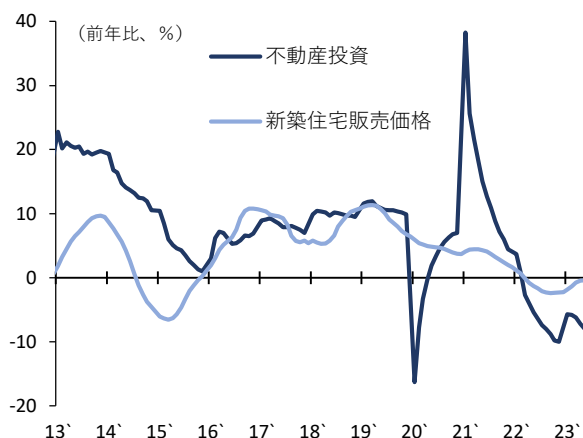
図表 2: 貿易実績の推移



出所: Macrobond、みずほ銀行

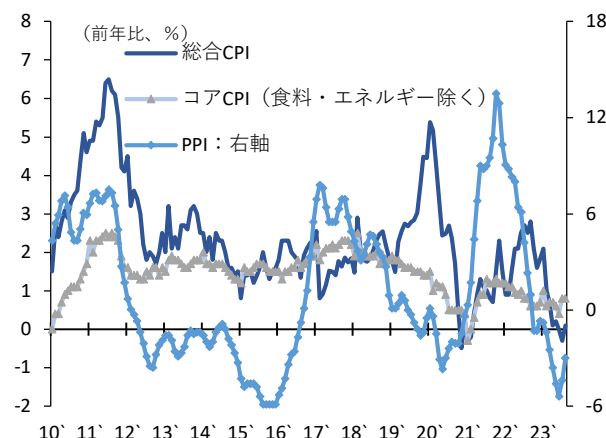
注: 前方 3 か月移動平均

図表 3: 不動産投資と新築住宅販売価格(前年比%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

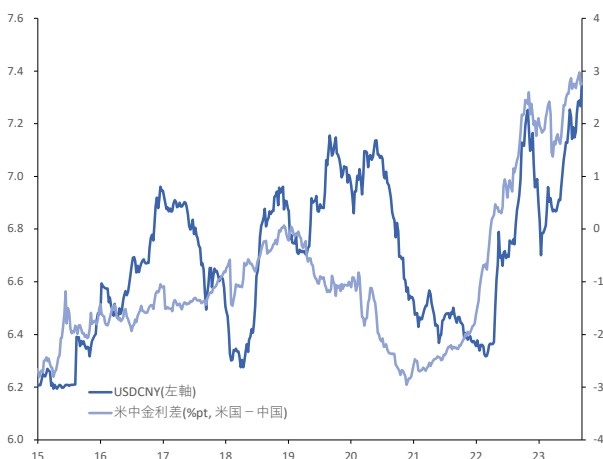
図表 4: CPI と PPI(前年比%)



出所: Macrobond、みずほ銀行

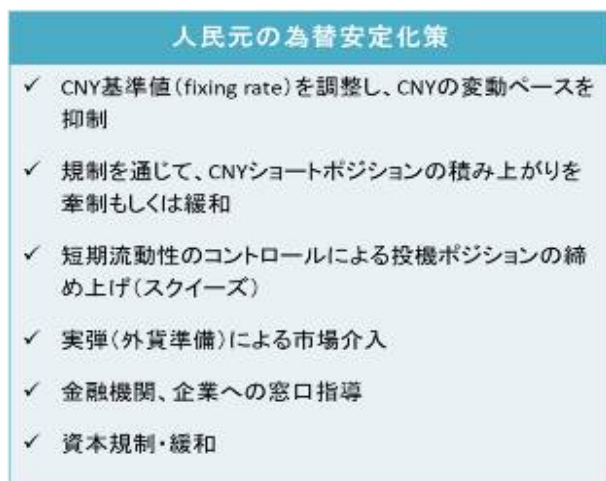
注

図表 5: 対米金利差と人民元相場



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

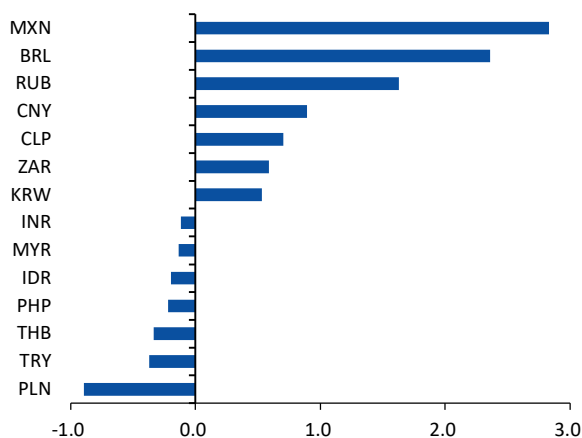
図表 6: PBoC による主な人民元安の抑制手段



出所: みずほ銀行

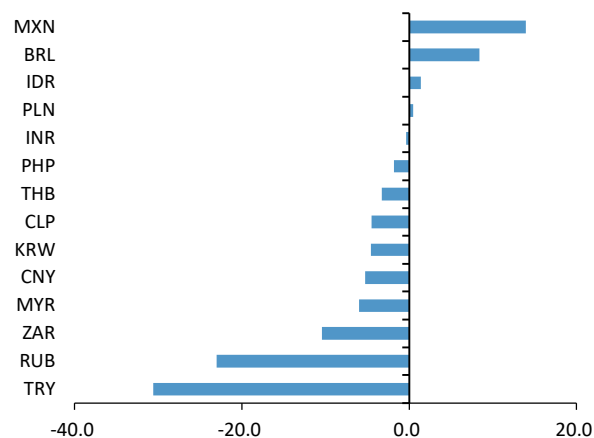
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



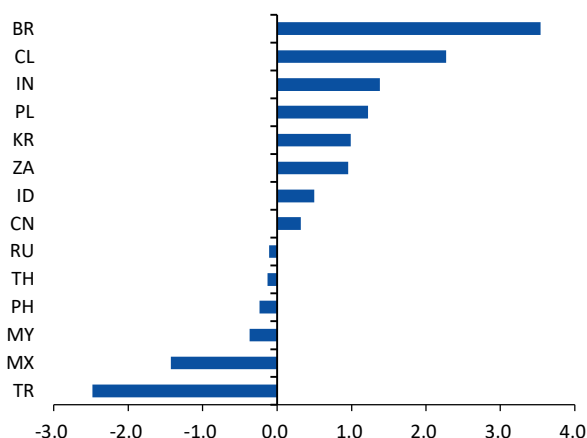
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



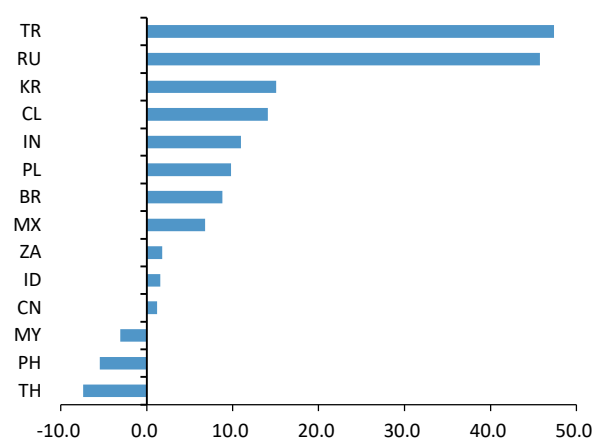
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



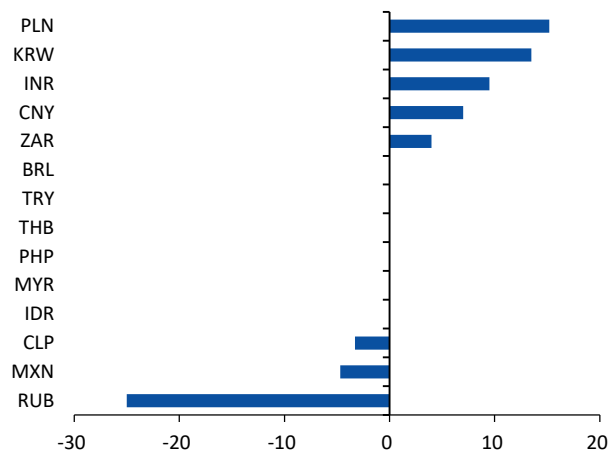
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

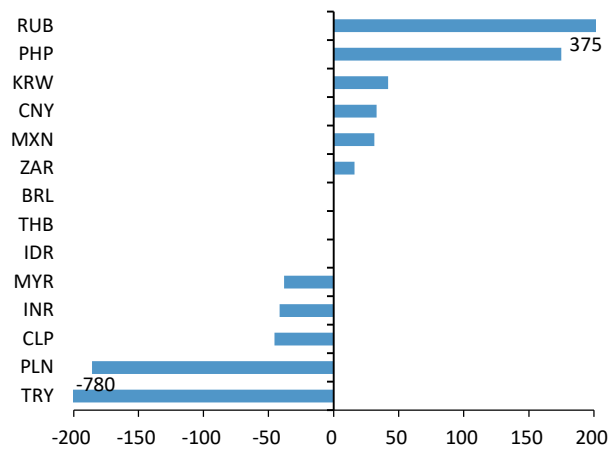
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)

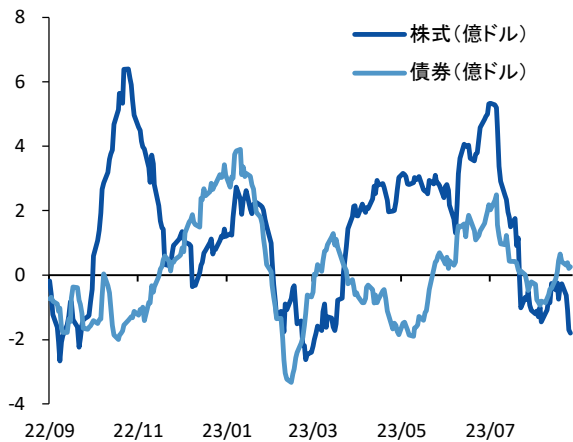


注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

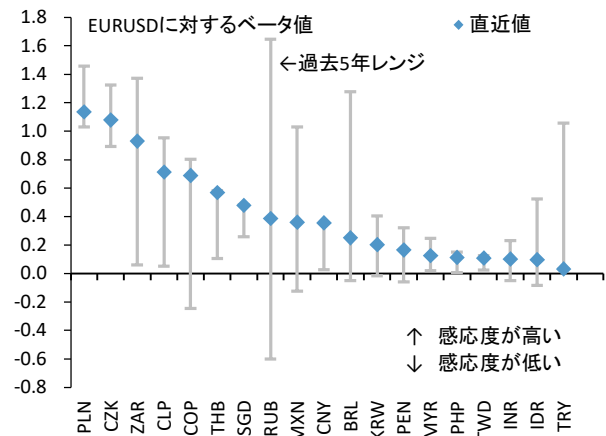
チャート集

主要新興国への証券投資(4 週間移動平均)



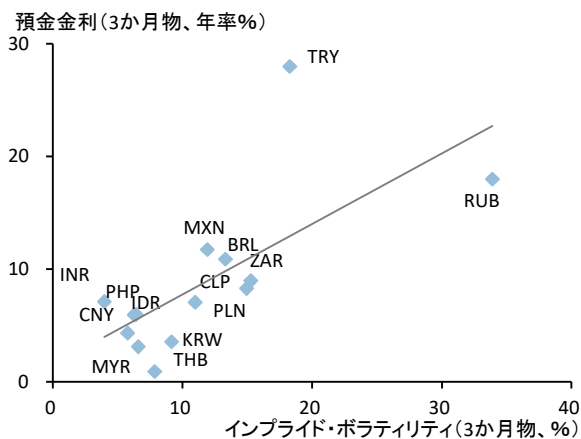
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去 12 か月)



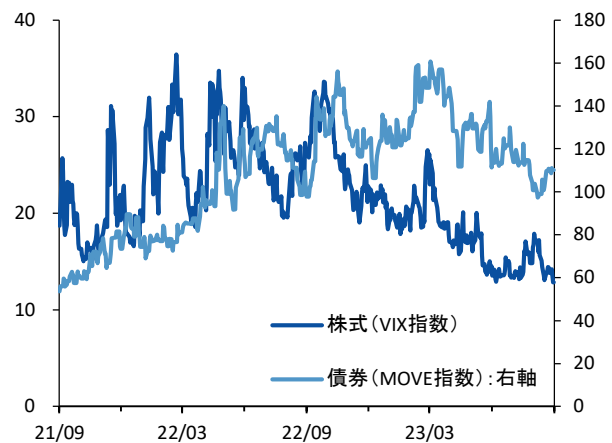
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



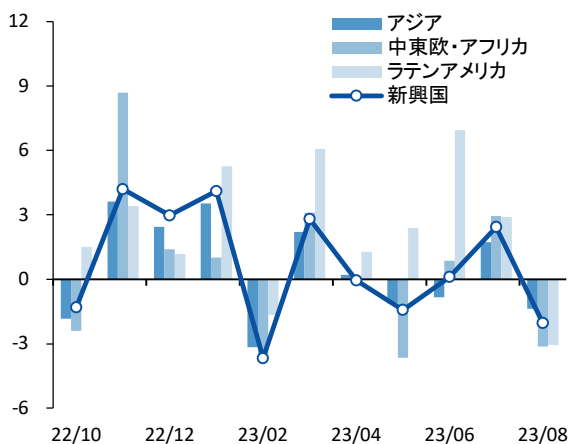
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



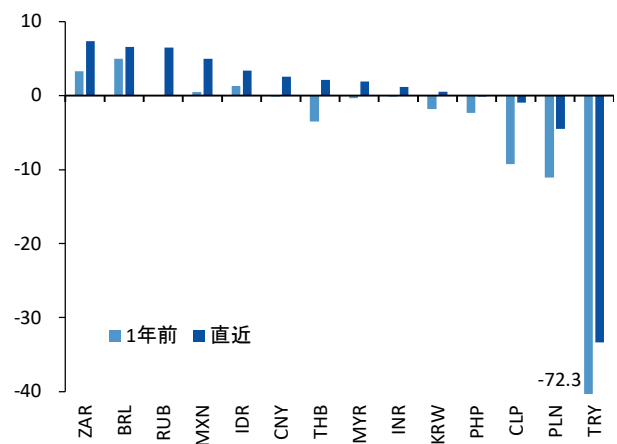
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10 年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
9月11日 (月)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	-0.2%	0.7%	-2.2%	--
12日 (火)	インド	鉱工業生産(前年比)	5.3%	5.7%	3.7%	--
12日 (火)	インド	CPI(前年比)	7.1%	6.8%	7.4%	--
13-15日	インド	輸出(前年比)	--	--	-15.9%	--
13-15日	インド	輸入(前年比)	--	--	-17.0%	--
14日 (木)	インド	卸売物価(前年比)	-0.6%	-0.5%	-1.4%	--
15日 (金)	インドネシア	貿易収支	\$1500m	--	\$1310m	--
15日 (金)	中国	鉱工業生産(前年比)	3.9%	--	3.7%	--
15日 (金)	中国	小売売上高(前年比)	3.0%	--	2.5%	--
15日 (金)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	3.4%	--	3.4%	--
15日 (金)	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	2.5%	--	2.1%	--
18日 (月)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	--	--	-20.2%	--
19日 (火)	マレーシア	輸出(前年比)	--	--	-13.1%	--
19日 (火)	フィリピン	総合国際収支	--	--	-\$53m	--
20日 (水)	韓国	PPI 前年比	--	--	-0.2%	--
20日 (水)	台湾	輸出受注(前年比)	--	--	-12.0%	--
21日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	--	--	6.3%	--
21日 (木)	インドネシア	インドネシア銀行7日物リハースレホ ^o	--	--	5.75%	--
21日 (木)	台湾	CBC指標金利	--	--	1.875%	--
22日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	--	--	2.0%	--
中東欧・アフリカ						
9月11日 (月)	トルコ	経常収支	-4.50b	-5.47b	0.67b	0.65b
11日 (月)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	--	7.4%	0.6%	0.2%
11日 (月)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	4.8%	2.3%	5.5%	5.9%
15日 (金)	ロシア	主要金利	12.0%	--	12.0%	--
20日 (水)	南ア	CPI(前年比)	--	--	4.7%	--
20日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	--	--	-0.9%	--
21日 (木)	トルコ	1週間レホレート	--	--	25.00%	--
21日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	--	--	8.25%	--
22日 (金)	トルコ	外国人観光客(前年比)	--	--	7.3%	--
ラテンアメリカ						
9月11日 (月)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	4.0%	4.8%	3.7%	--
12日 (火)	ブラジル	IBGEインフレIPCA(前月比)	0.3%	0.2%	0.1%	--
12日 (火)	メキシコ	ANTAD既存店売上高(前年比)	--	3.1%	6.3%	--
15日 (金)	ブラジル	小売売上高(前年比)	2.0%	--	1.3%	--
18日 (月)	ブラジル	経済活動(前年比)	--	--	2.1%	--
21日 (木)	ブラジル	SELICレート	12.75%	--	13.25%	--
21日 (木)	メキシコ	小売売上高(前年比)	--	--	5.9%	--
22日 (金)	メキシコ	経済活動IGAE(前年比)	--	--	4.1%	-1.5%

注: 2023 年 9 月 15 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2023年 1～8月（実績）	SPOT	2023年 9月	12月	2024年 3月	6月	9月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	6.6910 ～ 7.3175	7.2789	7.25	7.15	7.10	7.05	7.00
香港ドル (HKD)	7.7920 ～ 7.8500	7.8285	7.84	7.84	7.83	7.81	7.78
インドルピー (INR)	80.883 ～ 83.163	83.040	83.6	82.0	83.8	82.2	80.5
インドネシアルピア (IDR)	14565 ～ 15643	15355	15500	15050	15280	14800	14600
韓国ウォン (KRW)	1216.30 ～ 1343.42	1325.67	1330	1320	1310	1280	1250
マレーシアリング (MYR)	4.2250 ～ 4.6918	4.6838	4.62	4.51	4.57	4.45	4.35
フィリピンペソ (PHP)	53.628 ～ 56.976	56.755	56.6	54.8	55.0	53.8	53.5
シンガポールドル (SGD)	1.3032 ～ 1.3625	1.3636	1.35	1.34	1.36	1.34	1.32
台湾ドル (TWD)	29.608 ～ 32.012	31.903	31.7	31.5	31.2	30.6	30.0
タイバーツ (THB)	32.57 ～ 35.74	35.79	35.0	33.8	33.9	32.7	32.5
ベトナムドン (VND)	23415 ～ 24190	24195	24200	23700	24100	23600	23400
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	67.0415 ～ 102.2300	96.0400	96.0	98.0	100.0	102.0	104.0
南アフリカランド (ZAR)	16.6950 ～ 19.9204	19.0272	19.0	18.8	19.0	19.2	19.4
トルコリラ (TRY)	18.4339 ～ 27.3069	26.9510	26.0	24.0	22.0	24.0	26.0
ラテンアメリカ							
ブラジルレアル (BRL)	4.6967 ～ 5.4798	4.8706	4.95	5.00	5.05	5.10	5.10
メキシコペソ (MXN)	16.6262 ～ 19.5882	17.1069	17.0	17.8	18.2	18.5	18.7
対円							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	18.793 ～ 20.201	20.288	20.14	20.56	20.42	20.28	20.14
香港ドル (HKD)	16.295 ～ 18.780	18.837	18.62	18.75	18.52	18.31	18.12
インドルピー (INR)	1.559 ～ 1.782	1.775	1.75	1.79	1.73	1.74	1.75
インドネシアルピア (100IDR)	0.831 ～ 0.967	0.960	0.942	0.977	0.949	0.966	0.966
韓国ウォン (100KRW)	9.915 ～ 11.194	11.122	10.98	11.14	11.07	11.17	11.28
マレーシアリング (MYR)	29.106 ～ 31.698	31.470	31.60	32.59	31.73	32.13	32.41
フィリピンペソ (PHP)	2.325 ～ 2.625	2.595	2.58	2.68	2.64	2.66	2.64
シンガポールドル (SGD)	96.55 ～ 108.56	108.15	107.91	109.46	106.77	106.72	106.82
台湾ドル (TWD)	4.205 ～ 4.663	4.623	4.61	4.67	4.65	4.67	4.70
タイバーツ (THB)	3.770 ～ 4.184	4.120	4.17	4.35	4.28	4.37	4.34
ベトナムドン (10000VND)	0.5430 ～ 0.6146	0.6092	0.60	0.62	0.60	0.61	0.60
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	1.422 ～ 1.948	1.536	1.52	1.50	1.45	1.40	1.36
南アフリカランド (ZAR)	6.909 ～ 8.070	7.751	7.68	7.82	7.63	7.45	7.27
トルコリラ (TRY)	5.108 ～ 7.482	5.454	5.62	6.13	6.59	5.96	5.42
ラテンアメリカ							
ブラジルレアル (BRL)	23.723 ～ 30.405	30.279	29.49	29.40	28.71	28.04	27.65
メキシコペソ (MXN)	6.651 ～ 8.778	8.619	8.59	8.26	7.97	7.73	7.54

注: 1. 実績の欄は 2023 年 8 月 31 日まで。SPOT は 9 月 15 日の 7 時 10 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。